

星城大学

学長 石田 隆城 様

星城大学 外部評価委員会

委員長 金子 章道 (畿央大学 栄誉教授)

委員 植松 光俊 (星城大学 名誉教授)

委員 石原 卓 (岡山大学学術研究院教授)

委員 出口 克美 (星城大学 後援会長)

昨年度に続き、今年度も外部評価委員会を対面にて実施することが出来ました。大学の自己点検評価として纏められた「自己点検評価書」を各委員において点検を行い、委員会での面談、回答をもとに各委員において再度点検・評価を行い、下記のとおりのもまとめとしました。

星城大学外部評価委員会 意見

いよいよ日本は少子高齢化時代に入り、入学者を確保し大学を存続させることが国公立、私立を問わず国内の全ての大学の喫緊の課題となっている。星城大学も第5次中期計画の下、理事長、学長以下全教職員を挙げてこの問題に取り組んでおられることは様々な資料から理解できた。自己点検評価書に記載されている様々な試みと取り組みには敬意を表すが、これによって入学者確保ができるかどうかは明らかではなく、有効と思われる手立ては読み取れなかった。理事会・評議員会において星城大学の将来計画が議題に上り、議論されているであろうことは議事次第から推察されたが、自己点検評価書の付属資料からもどのような内容が議論されているのかは伺い知ることが出来なかった。しかし、2025年9月22日開催の外部評価委員会にて、学長より「学部・学科改編・新設、施設改修計画」の説明を受けることができた。委員一同はこの「大学将来構想」を伺い、学長が一層強いリーダーシップを発揮され、両学部長、研究科長とも一丸となり、新学科設立と新たな事業開設構想の推進に一層のパッションをもって取り組み、是非新学科の認可が下りるよう鋭意努力されんことを願っている。

今回の議論の内容も踏まえ、以下に意見を列記する。

1. 貴学の建学の精神・大学の基本理念が優れており、それゆえに昭和16年から継続してきた長い歴史があることに感心させられた。また、自己点検評価書においても全般的に「絶えざる自己変革」の姿勢とスピード感のある取り組みが感じられ、好感を持つことができた。今後も建学の精神・大学の基本理念を貫くことが重要であると感じた。
2. 卒業生の「先輩の声」をホームページに掲載することを検討してはどうか。
3. 受験生応援サイトについては良いサイトだと感じた。

4. 学科申請においては言葉・表現が重要である。設置目的等を説明する際など、言葉の選び方をしっかり検討されるとよい。ひとつひとつの表現について文科省は相当説明を求めることが予想される。
5. 昨今、文科省は実装化という表現をよく用いており、社会貢献を求める声が高まっている。
6. 社会に星城大学卒業生が受け入れられるよう、価値を高められるような資格取得を検討してもらいたい。一方、公的ではない、私的な資格については、それがどのような価値を持つのかを見極める必要がある。
7. 学生募集においては、若者はSNSなどを通じて大学を見ると親しみが湧きやすいのではないかと。結果、もっと大学をよく見てみようという興味を抱かせることができると思う。学生ボランティアなどに任せて作らせてみてはどうか。
8. 在宅介護などのPRにおいても画像を通じて広報することがある。オンラインを活用しながら学生が現場の様子を視聴し、質疑応答など行えば、その現場への興味も高められる可能性がある。
9. 卒業生のアンケート結果については、ホームページ掲載のみならず、教授会等でフィードバックするとともに、結果にもとづき教育活動の方向性を検討すべきだと考える。
10. リハビリテーション学部にも附属病院が必要だという議論がなされた時代があった。しかし、実現は難しいということで、星城大学リハビリテーション学部を開設する際には準附属病院のような位置付けで実習施設を確保していた。今回の介護事業所の開設は社会実装を具現化するものでもあり理にかなっている。
11. 近年、親に勧められて医療系に進む学生が増えている。そうした学生には早期に現場を見ることで得られる教育効果は非常に高い。専門学校では昔この取り組みを実施した。ただし、この取り組みは学生数が多くなった現在では相当な労力が必要。しかし、学生との関わりが深くなり、中退防止にも効果があると思う。また、成績下位の学生に対しチュートリアル教育を施すという考え方もあるのではないかと。大学としてのアピールポイントにもできる。
12. 経営学部についても実装化の検討が必要ではないか。介護予防の分野などでビジネスモデルを教員と学生と、共に考えてみてはどうか。授業でアイデアを出しながら課題を検討することもできるのではないかと。愛知医科大、和歌山県立医大では実践し、成功している例もある。

以上